

第5回静岡市持続可能な森づくり研究会

静岡市

令和7年9月9日

「これまでの議論の整理」

1. これまでの研究会での主な意見と方向性
2. 静岡市の森林の課題の整理
3. （仮称）静岡市森林経営管理計画で伝えたいこと・示したいこと（案）
4. 計画の概要（案）
5. 木材生産視点と公益的機能視点からの森林タイプ分け（案）
6. 循環林なのか環境林なのか、タイプ分け目安に使うフローチャート（案）

1. これまでの研究会での主な意見と方向性

循環林、木材利用について

- ・100年先の森林を見据えて施業できる、高度な経営ノウハウを持った担い手の育成
- ・短期的な外部人材の効率的活用
- ・育林コストの低減による素材価格の向上
- ・オクシズ材の特徴を活かしたブランディングと高付加価値化
- ・森林認証の推進と非合法木材、再造林放棄への対策
- ・エンジニアードウッド工場設置による歩留まりの向上
- ・清水港の利用による輸出の促進
- ・フォレストインダストリー全体での信頼構築による安定供給

環境林について

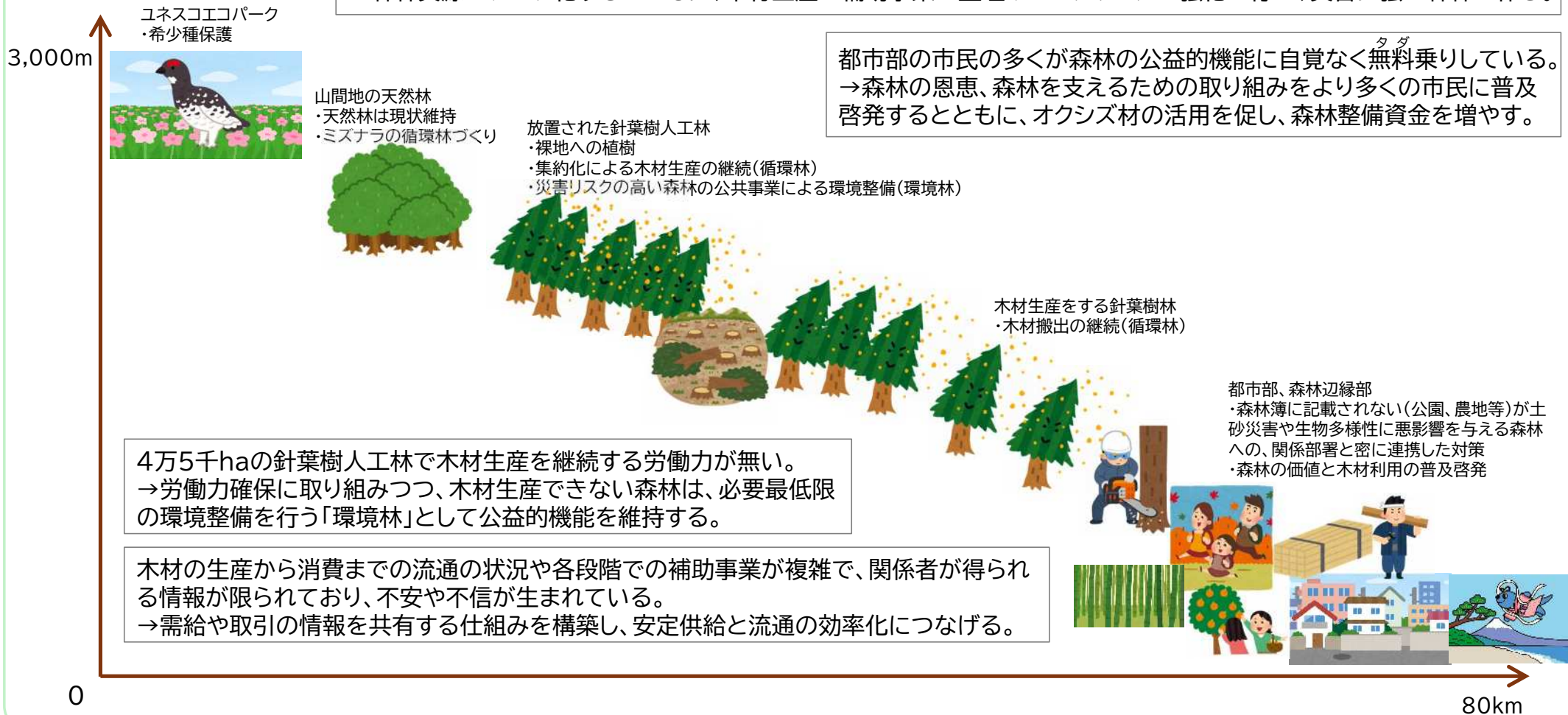
- ・環境林への理解の浸透
- ・森林の公共性を所有者が納得した上での整備
- ・環境林への移行手法の明確化
- ・広葉樹林化、複層林化に向けた知見の蓄積
- ・公共事業と民間活力による環境林整備
- ・科学的根拠に基づく公益的機能の評価
- ・公益的機能発揮への対価の回収(クレジット創出、グリーンウォッシュ対策)
- ・竹林、放置され森林化した農地の対策
- ・人家近隣の支障木、危険木の予防伐採

全体について

- ・人のための整備(災害、獣害対策)と生物多様性や環境保全の均衡
- ・巡視、モニタリングの強化
- ・広大で奥深く多様性が高い静岡市の森林の扱いの整理
- ・森林と市民との関わり(都市部市民の理解不足、森林の恩恵への無料乗り)の改善
- ・森林情報の公開と価値の見える化(山の恵みがしみ出すような街)
- ・公共建築物でのオクシズ材利用を通じたPR(森の国・木の街プロジェクト)

2. 静岡市の森林の課題の整理

多くの針葉樹林が放置され荒廃が進んでいるが、全貌が把握できていない。
→森林資源をデータ化するとともに、木材生産の補助事業の整理やモニタリングの強化を行い、災害に強い森林を作る。



3. (仮称)静岡市森林経営管理計画で伝えたいこと・示したいこと(案)

計画の3本柱

山・製材所・交通網・港など市内のリソースを生かし、「森業」を育てる
伐って植え 循環って 賑わいに

オクシズ材の価値の再確認と豊富な森林資源の活用により、
まちの持続的な発展を支える。

豊かで安全安心な森づくりを通じ、自然環境と市民生活を守る
皆で監る 社会を支える 森林づくり

静岡市の森林が公益的機能を発揮し社会を支え、市民生活の脅威とならない状態を維持できるよう、皆が自分事として森林づくりに関心を持ち、様々な手段で支援し、見守り(監視し)続ける。

「森」の価値を見だし、山・川・海・まち・人をつなげる「森」と共生する
木を通し 考え続ける 山と海

木材利用や海の幸の堪能といった日常生活を通して、森林の価値を学び、
感謝の念を育み、オクシズからしずまえに至る郷土への誇りを醸成する。

参考:関連計画のメッセージ

オクシズ地域おこし計画
山村と都市が共生・共育し、持続的に
発展するまち 静岡

静岡市環境教育行動計画
多様な主体・世代間で環境域式を高め合
い、将来にわたり市民が一丸となって環
境活動に取り組んでいるまち

第3次静岡市地球温暖化対策実行計画
経済・社会・環境の三側面の好循環を生み出
す地域脱炭素の基盤整備を進めます

第2次静岡市生物多様性地域戦略
(しずおか生きもの元気計画)
社会・自然の変化に対応した生物多様性へ
の理解・協働推進による保全・再生の拡大

静岡市みどりの基本計画:輝くみどりを未来につなぎ 人が輝き未来につなげる 人と自然の共生都市 静岡～市民のWell-beingの向上に寄与する質の高い緑を保全・創出～

第3次静岡市環境基本計画:人と自然が共生し、将来にわたり豊かな営みを続けられるまちの実現

第4次静岡市総合計画:誰もが幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまちの実現

4. 計画の概要(案)

計画の名称

計画に関する3つの要素を表す言葉の組み合わせを想定
(例:静岡市 持続可能な森林づくり ビジョン)

静岡市全体の
森林が対象

静岡市
しぞーか
オクシズ

⋮

+

林業だけでなく
森林環境整備、
木材の加工や利用、
教育啓発まで含んでいる

森林
森と木の
持続可能な森林づくり
森林づくり
フォレストインダストリー

⋮

+

マニュアル的な計画
というより
政策の方針を示すもの

グランドデザイン
ビジョン
指針
基本方針
総合戦略

⋮

計画の構成

第1章	計画の目的と基本方針
第2章	循環林と環境林のタイプ分け
第3章	循環林の管理方針と木材利用
第4章	環境林の管理方針
第5章	持続可能な森林管理のための施策
第6章	計画の推進体制と評価方法

第7回11/6

第6回10/7

この計画の位置づけ

非法定計画

法定計画

第4次静岡市総合計画

実現するための

第3次静岡市環境基本計画

関連計画

こ の 計 画

静岡市の森林全体の政策の指針

施業の方針

国・県の森林・林業の計画

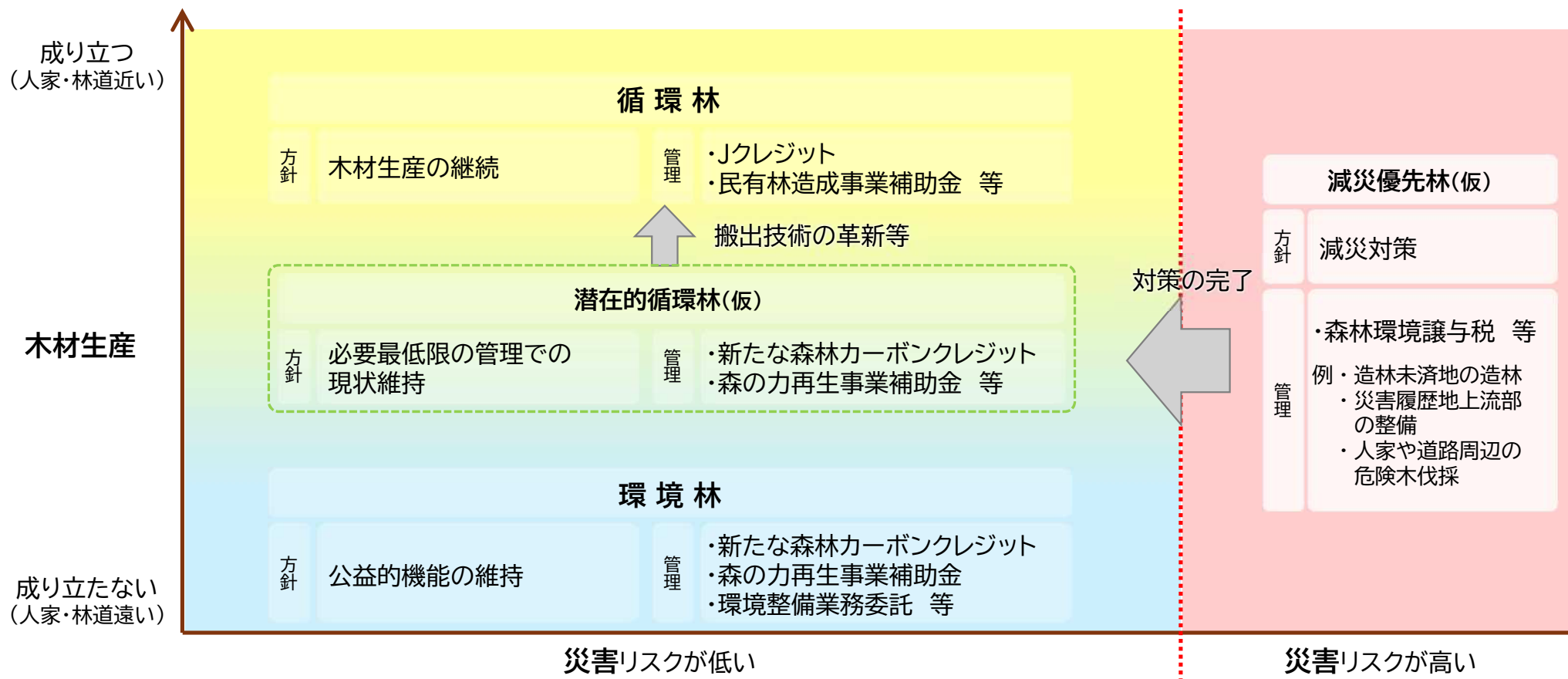
上位計画

静岡市森林整備計画

森林の整備手法をまとめたもの
(林業のルールブック)

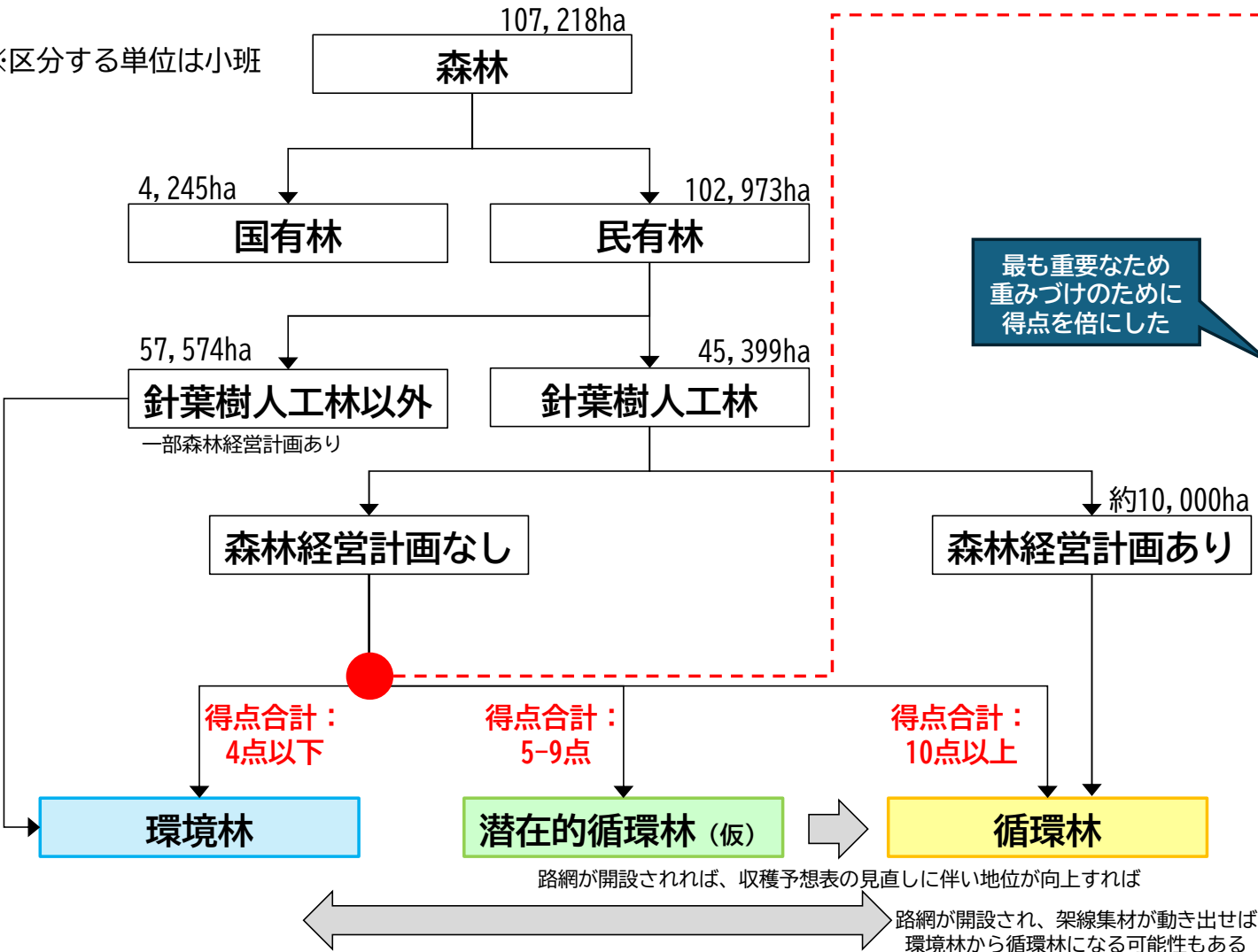
5. 木材生産視点と災害視点からの森林タイプ分け(案)

- ・静岡市の全ての森林で、木材生産が成り立ち、災害リスクが低く抑えられるのが理想だが、労働力、地形の問題から、タイプ分けして対応する必要がある。
- ・循環林として木材生産を継続するか、環境林として必要最低限の維持管理を続けるかは、所有者が決定する。
- ・循環林と環境林は流動的で、様々なケースが考えられる。時世(需要の変化、技術の革新)によって変わることもある。



6. 循環林なのか環境林なのか、タイプ分け目安に使うフローチャート(案)

※区分する単位は小班



「経営計画なし」以降の区分案

要素	区分	得点案
傾斜	0-30度未満	4
	30-35度未満	3
	35-40度未満	2
	40度超	1
路網からの距離	0-50m未満	8
	50-100m未満	6
	100-200m未満	4
	200m超	1
地位	I or II	3
	III or IV	2
	V	1
保安林等制限林	経営計画あり	2
	経営計画なし	1

最大得点：17

「傾斜」は航空レーザ計測データから、「路網からの距離」は、林道網図・市道網図と小班の関係から、地位は森林簿から算出予定。「地位」は林地の材積生産力を示す指数で、機構、地勢、土壌条件等の地況因子が総合化されたもの。通常、上中下の3等級区分であるが、静岡県においては5等級区分での評価となっている